

## 会 議 録 (概要)

会 議 の 名 称	第3回一般廃棄物処理施設整備基本構想検討委員会
開 催 日 時	平成29年4月28日(金)午後1時30分～2時55分
開 催 場 所	南那須地区広域行政センター 2階会議室
協 議 事 項	(1)ごみ処理(焼却・リサイクル)システムの検討について (2)その他
出 席 委 員	公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長 荒井喜久雄(委員長) 宇都宮大学名誉教授 三橋伸夫 南那須地区広域行政事務組合 議会議長 佐藤昇市(副委員長) 南那須地区広域行政事務組合 議会副議長 阿久津武之 那珂川町環境審議会 会長 小川正典 那珂川町行政区長連絡協議会 副会長 菊池眞一 那須烏山市女性団体連絡協議会 会長 萩原宣子 那珂川町農村生活研究グループ協議会 会長 高野篤子 那須烏山市 副市長 國井豊 那珂川町 副町長 岡由樹夫 計10名
欠 席 委 員	宇都宮大学国際学部准教授 高橋若菜 那須烏山市環境審議会 会長 山田清 那須烏山市行政区長連絡協議会会長 計3名
事務局の出席者	構成市町 那須烏山市環境課長 薄井時夫、那珂川町生活環境課長 大武勝 南那須地区広域行政事務組合 小林貞大事務局長、澤村雅彦総務課長兼施設整備室長、澤村誠一保健衛生センター所長、堀江辰徳施設整備室係長、両方博幸保健衛生センター係長 株式会社日本環境工学設計事務所 3名

発言者	内容
<b>次第1 開会</b>	
事務局	(事務局挨拶)
<b>次第2 委員長挨拶</b>	
	(委員長挨拶)
<b>次第3 平成29年度事務局紹介</b>	
	(事務局自己紹介)
<b>次第4 報告事項(1) 第1回委員会会議録の確認</b>	
事務局	(会議録の説明)
	(委員、了承)
<b>次第4 報告事項(2) 第1回委員会での指摘事項</b>	
事務局	第1回委員会において、委員からごみ処理経費についてももう少し細かな項目を増やせば、より市民に伝わるのではとご意見を頂いた。 意見を踏まえ、ごみの方は基本構想のP26に表2-8として詳細を付け加え、し尿の方はP39に表2-16として付け加えました。
委員	ごみ処理経費は上昇傾向で、し尿処理経費は減少傾向となっている理由を教えてください。
事務局	ごみ処理施設については、稼働後27年が経過しており、平成22、23年度で基幹改良整備工事を実施したが、工事を実施していない部分の工事請負費が大きくなっていることが原因と考えられる。し尿処理施設に関しては、平成25、26年度で基幹改良工事を実施し、乾燥していた汚泥を助燃剤化することになったため、燃料費がほぼかからなくなったというのが原因かと考えられる。
	(委員、了承)
<b>次第5 協議事項(1) ごみ処理(焼却・リサイクル)システムの検討について</b>	
事務局	(一般廃棄物処理施設整備基本構想 ごみ処理施設概要版について説明) 「第1章 ごみ処理の現状」について説明
委員	2ページ的那珂川町の家庭ごみの分別区分と排出方法は、最新の情報でしょうか。
事務局	那珂川町に関しては、平成29年4月から名称等が変更されており、修正させていただきます。
事務局	「第2章 基本的諸元」について説明
委員	P6の下部で排出抑制パターンを具体化しているのは効果的だと思う。しかし、実際に家庭で抑制するためにはどれだけ効果的な啓発を行えるかということであると思うが、今後は現状での取り組みを増加させるのか、新たな施策や取り組みを見出すのか、その辺りの見通しをお伺いしたい。
事務局	那須烏山市と那珂川町も含めた広域行政で担当者会議を開いており、その中でさらなる普及啓発に向けて進めていきたい。また、那珂川町においては、今年の10月から生ごみ堆肥化の実証実験を行っており、そのような取り組みも減量化

	に繋がっていくのではないかと考えている。
委員長	しっかりとした普及啓発を促進していかないと、この目標は達成できないと思いますので、ぜひ今後の数値を把握していくことで普及啓発効果を強化していただきたい。
事務局	「第3章 可燃性ごみ処理施設の検討」について説明
委員	<p>8, 9ページに年間実稼働率が280日とあるが、この実稼働率を増やすことによって少しごみが増加しても対応できるのではないかと思うが、その辺りを教えていただきたい。</p> <p>また、14ページの建設価格動向の金額は、契約時の金額なのか、それとも出来高の金額なのか教えていただきたい。特に平成23年度以降は、東日本大震災の影響で資材や労務費が高騰していることは反映されているのかを教えていただきたい。</p>
事務局	<p>実稼働率に関しては、必ずしもこの数値でなければならないということではない。ただ、全国都市清掃会議の設計要綱でこのような数値が基準として明示されているため、本資料においても採用している。</p> <p>次に建設価格動向の金額はどの時点かということですが、契約の段階であると認識している。また、東日本大震災の影響に関して、23年度から24年度で、単価が上がっていることが読み取れる。</p>
委員	今後、東京オリンピックも終わり、建設コストは今よりもかなり下がる可能性があるのではないか。
事務局	オリンピック前後の先読みに関しては、変動があるかもしれないが、予測は大変難しい。
委員長	<p>39年度の稼働開始予定のため、36年ごろに工事契約となることから、その頃には大体目安が見えてくるであろう。オリンピックが終われば工事費が安くなるという意見が多い。</p> <p>また、実稼働率に関しては、ここでの計算は24時間稼働のための式で、小規模であれば16時間稼働にするのか等ということもあり、今の段階ではこの式で計算するのがやむを得ない。現実的には300日位は運転できると思うので、若干ごみが増加しても対応はできるであろうということです。</p> <p>基本構想の中で施設規模は絞っていくのか。</p>
事務局	基本構想の中で案としてもっていきたいと考えている。
委員	ごみの減量化が大体の目標となってくるが、この辺りの減量化策をどのように一般家庭に周知していくか、具体的にどのような方法で実施するかをご質問させていただきます。
事務局	ごみ減量化の施策を試行しながら実施していきます。また、さらなる資源化については、雑紙の資源化と生ごみの堆肥化を進めていきます。雑紙の資源化に関しては、構成市町と協議しながら進めていきます。生ごみの堆肥化に関しては、那珂川町では昨年10月から実証実験を行っており、目標としては町内の75%を目指しています。那須烏山市では今後検討していくということです。

	容器包装プラスチックに関しては、益子町で昨年10月から実証実験を開始していることもあり、その状況なども見つつ、平成31年度に策定予定の基本計画の中で再度施設規模などを見直したいと考えている。
委員	15ページの全体概算事業費の堆肥化施設を除いた概算事業費だが、14ページの単価を参考に施設規模を乗じて費用を算出したのか、それとも平成39年度の金額を見越して算出したのかを教えてください。
事務局	14ページの過去3か年の平均金額を用いて算出している。
委員長	金額の取り方は様々な方法があるかと思うが、オリンピック等を考えると今後は金額が大きく変動する可能性がある。今の段階では精度というより、あくまで比較するための数字ということですね。
事務局	そのとおりである。
委員	14ページ、19ページの施設規模の単位区切りが異なっている。合わせることは可能か。
事務局	検討して、修正することとする。
事務局	「第4章 リサイクル処理施設の検討」について説明
委員長	施設規模算出の中で変動係数とあるが、これは何か。
事務局	季節毎に多い時期と少ない時期があるため、多い月に合わせて施設規模を算出している。
事務局	「第5章 事業スケジュール(案)」について説明
<b>次第5 協議事項(2) その他</b>	
事務局	次回、第4回は6月2日(金)13:30～、第5回は6月27日(火)13:30～を予定している。